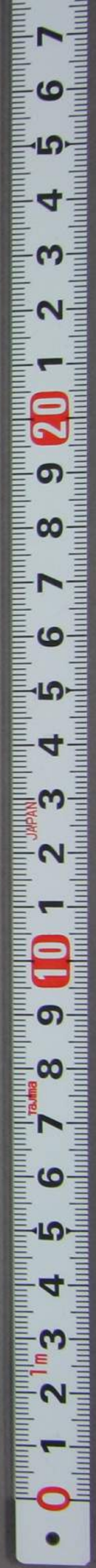


東京タイムズ新聞抄譯

4258



114
A3170

二



留易論

千八百七十七年 二月廿四日 發行

大正十一年
大隈侯爵邸
寄贈

自由易トシテ普ク通知セル論策家ノ委負タ
 ル人々ガアダムスミスノ尊名ヲ貴敬スルノ
 屢々ナル所以ヲ考フルニ如何ニモアダムスミ
 スノ著述ヲ以テ習熟スルヲ以テ或景況ニ於テ
 其ノ無智タルノナシ、勿論アダムスミスノ謂
 ヘル處ヲ精密ニ誦読勉学センヨリハ寧口近記
 ノ卓越ナル談經濟家ニ漠然タル關係ヲ為ス
 此尚ホ容易ナリトス然レ氏漸ク徐カニ漸ク
 亮セルノ進捗ハ全ク是タルナシ、然リ而シテ

談夏ハ唯一ツノ避ク可ラサル不利益ヲ釀スニ
至ルベシ。正直ナル孝生輩ガ其契約上ノ總理ヲ
誘掖セン為アダムスミスノ富國論ヲ聚ムルニ
自ラ假想シタル々權利通義ヲ甚々定限アル範
圍ニ局セリ其ノ普通ノ感得タルヤ博士スミス
氏ノ大意ハ英國輸入只上抑制ノ說ニ抵抗セシ
故ニ追時自由貿易派ノ理會セル誤認ハ氏ノ源
理ヲ引テ正誤セラルベシ。此ノ誤謬ハ氏ノ原理
ノ廣布スルニ隨テ大ニノ且ツ害アリ。初メ博士
スミスハ保護稅論中或ル方法ノ到底利益如何

ニ至テハ疑点ヲ抱キシト虽モ其保護稅說ハ其
レヲ學クル夫々職業ノ特種ニ向テ甚シキ勵精
ヲ起ストエフコトニハ狐疑セサリシ。是即チ充分
真直ノ通路ナリ然レモ我輩只嘗テ職業ノ進捗
モ(持)ラル可キ進捗保護律ニ依テ必然妨碍セラ
ル、コトヲアダムスミツヲ奉スル高弟ニ依テ却
賣明細表ヲ看ルヲ得タリ。曾テ彼レヲ知ラズシ
テ彼レニ控訴シテ裁決ヲ乞フ者ニ見ヘ得ルガ
如^奇異ナル富國論ノ著者ハ内地職業ヲ獎勵ス
ル為ニ外國ノ職業ニ或ル重荷ヲ負ハスルコトハ

一般ニ利益ト為ラン丁ノ場合ヲ直チニ認了ヤ
該場合ノ一例ハ彼ノ説ニ若シ特種ナル職業
ノ其國ノ防禦ノ為メ必須ナルハト云ヘシヲ
以テ徵スベシ。假令ハ彼航海律ヲ証シテ他國ノ
諸船ニ或場合ニハ大禁ヲ置キ或ハ重荷即チ難
題ヲ掛ケルモ大英國ノ貿易上ニ專業壟斷ヲ占
メ自國航海ノ盛業ヲ希圖シ且ツ彼レ云ヘル丁
アノ此等ノ法律ハ最モ熟考セル智畧ヲ以テ命
令セルモノ、如クアリシト國ノ防禦ニ於テ何
ヲ以テ府要トスルヤ否ヤノ問謀ニハ大イニ論

壇ヲ開キテ各條必シモ重厚ナル爭論ヲ要セサ
ル可シ。航海律カ最モ其常ニ好計妙算ニメ純粹
ナル保護説ノ完全備具タル一徵候ナル丁ハ確
乎々リ英國既ニ求テ又仍ホ施設スル所ノ論策
ヲ諸國カ避ケテ防護ヤントスル權理ニ関シテ
博士スミスノ外斯クカヲ用キテ主唱ヤシ者更
ラニ非ザリシ。英國ガ其到達シ得ル各國其到ル
然ハザルモノ僅ニ數小國而已ニ自國ノ製造品
大イニ世界一般ニ推廣メント銀ク為ス丁
是非共許可スモリ登時別ニ他事ナシ、アダムス

ミス去リ得意先ヲ廣ムルニ單一ナル目的ニ向
ク一大國(按スルニ英ノ如キ)ヲ起立スルハ初標
ニ於テ先ヨ小賣商人ノ國而已向テ適セル謀計
ヲ現ハスヲ以テ工夫ス。然リ此謀計ノ小賣商人ノ國
ニ於テ悉ク適セサルモ其政府小賣商人ノ為ニ
感化セラル、カ如キ國ニ於テ適スルヤ必セリ。
夫レ只斯ノ如キ政權家者流ハ斯ノ如キ天下ヲ
基礎維持センカ為メニ其同國良民ノ血液及ヒ
儲蓄ヲ使用シテ或ハ利益ヲ發見セン、トテ妄想
スルニ足レリ。一千七百七十六年ニ於テ英國努

カシテ英國貿易ノ為ニ謀テ活用セシ策ヲ以テ百
年来仍ホ同権力ニ依テ同勞カヲ以テ一様ノ勞
ニ活用ス。若シ此ノ如キ用途ノ違スルアレハ全
世界ハ英國ノ得意ト為ルヤ必セリ。今日本ノ海
關稅目ヲ其終ニ依然保タシムルノ因故ハ該英
人ノ用途ニ依テ感動セララル、外他事アルニア
ラザルナリ。此ノ從属ノ有様ニ日本ヲ一致サセ
ンガ為メ自由貿易ノ幻想ト妄念ハ續々トシテ
日本國ノ目前ニアリ。アタムスミスノ教訓ニ依
テ如何ニ正誤セララル、カハ尤ノ拔書ニテ裁決

サル、ナリ。曰ク大教ノ人民ニ其民ガ生産スル
粗材ヨリ各件ノ製品ヲ造ラシムルヲ禁シ及
ビ其自己ニ最モ利潤アリト裁断スル方向ニ就
テ其産有スル物品ヲ用井其職業ニ従事スル
ヲ禁スルハ天然賦每セル人類ノ権理ヲ妨害犯
侮スルマ明ケシ。而メ夫レ是ノ如ク謂ハル、ヲ
以テ之レヲ觀ルハ眞實保護律ノ論案ヲ基ニ
スル大主義ノ最ナル者ニ至テハ近時保護論
策家ノ委員^{タル}アダムスミスノ道理ヲ採^ル用ス
ルニ於テ少シク斟酌セハ恐怖スルニ足ラザル

ヤ明ラケシ。アダムスミスハ小賣商人ノ簡ヲ十
分ニ賤メリ登時之レヲ賤ム^一目今ノ自由貿易
家カ^敬歎ニ置ク可キ了簡ト全シ。アダムスミス
ハ無智ナル參政大臣ノ日本國ヲメ此說ニ依附
セ^シト勸ムルガ如キ^有。狹隘ナル限界ヲ越
エ諸々雜駁ナル職業ハ優等ナルヲ固持セリ。
アダムスミスノ外國貿易上内地利潤ノ說ニ於
ケル其注釋タルヤ判然トメ且ツ精密ナリキ而
メ其商賣如何ニ單ナル小分乃至又小分セル
モノ、小彙集ノ上ニモ一國ノ精力ヲ專務一致

ニ販セシムル思想ニ相反對セルハ各般製造事
業ト稼穡農業ノ廣大ナル結合ニ就テハ其
ノ如クニ確乎タリ

鍊道乗車切手説

千八百七十七年

近日接到セル「マサチウセツツ」(北亞聯邦)新聞紙
中一報道アリ其官報ニ係ラザルモ理旨憑據ス
ルニ足ルヲ以テ確信スルニ尚餘アルナリ其明
示スル所ニ曰ク「亜米利加ニ於テ」シイズン、チケ
ツト(乗車切手一種例之ハ五十度分トカ百度分トカ期限ヲ定メ前金ニ一緒ニ賣出ス切手)
ヲ賣出ス氣車通行ノ鉄道地面ト其之レヲ賣出
サバル氣車往復ノ鉄道敷地ト相比スルニ其地
價甚タ低廉アリ假令該切手ノ價值ハ毎日此点
ヨリ彼点トニ回通行スル旅客ヨリ得ル所其通

常切手ノ大約四分一ニ過ギサル高ナレ氏之レ
ガ為ニ旅客ヲノ往復スルニハ該鐵路線ニ由ラ
シムルヲ獎勵スルヲ以テ定期切手ヲ賣出サ
ザル時ニ之ヲ比スレバ乗客ノ多キヲ疑シ。
夫レ鐵道ノ大線路ハ免モ角其全ク新規ノ枝路
ニ至テハ多ク止ムトナキ場合ヨリシテ支給ヲ
此種ノ旅客ニ單ニ依頼シテ立テラレタルモノ
ナリ。道路ノ便宜右定期切手ニ依テ開カレタル
地方ノ繁殖ハ又以テ著シキモノアリ。繁昌ナル
村ニ多ク造出スニハ該便利ヲ以テ其原因ト

為ザル可ラズ否ザレハ其村里ハ持續シテ永
存在スルモ難カルベキナリ。諸該定期切手仕方
ノ相違ニ利益ニメ且ツ再生利アルトテ明カニ
証スル手段ハ單簡ニメ理ノ尤觀易キモノナリ。是
レ只此仕方ヲ決行シテ之レヲ試ミル迄ナリ。合
衆國ニ存テ之レヲ行フテ結果ケリシ如ク日本
ニ於テモ亦随分程ヨク行ハレ得ベキモノト思
ハル也。定期切手ノ用タル恐ラクハ當ニ鐵道
會社ニ於テハ所ヲ増加スル而已ナラズ大凡其
鐵道線路ニ添フタル土地人民ノ為ニ種々様々

ノ事ヨリシテ諸商賣ヲ獎勵スベシ然レモ鐵道會社若
シ民有ニシテ自己ノ利益ヲ謀ルカ為今後定期切
手ヲ突スベシト認ムルモ政府建築ノ線路ヲ
以テ之レヲ試驗スルヲ少シク猶豫斟酌スベシ
但政府ニ依テ公算シ大利益ヲ見ルカ為ナラスシテ其氣車ノ過ル
所ノ郡國ヲシテ一般ニ進歩セシムル目的アル
ヲ以テナリ適宜ナル直段ニテ定期切手賣出ノ
速カニ行ハレ此ガ為ニ地方商賣ニ付如何要ル
活発力ヲ種類ニ倚テ引起スベキヲ明示スルヲ甚夕
緊切ナラサルナリ是レ此論旨ヲ瞬間靜思スル所ノ

人々ニハ判然タル理由ナルベシ

